

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	短期大学の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン オオハシガクエン 学校法人 大橋学園									
フリガナ大学の名称	ユマニテク短期大学(Humanitec Junior College)									
大学本部の位置	三重県四日市市南浜田町4-21									
大学の目的	地域社会に密着した専門職業教育養成機関として、単に技能・知識を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力を身につけた人間性豊かな専門職業人を養成する。									
新設学部等の目的	保育・幼児教育に関する専門的技能と知識を身につけ、地域社会に貢献できる人間性豊かな人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	幼児保育学科 [Department of Early Childhood Education and Care] 計	2年	100人	—年次人	200人	短期大学士 (幼児保育学)	平成29年4月 第1年次	三重県四日市市南浜田町4-21		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	幼児保育学科	講義	演習	実験・実習	計	62単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	幼児保育学科	6人 (6人)	3人 (3人)	2人 (2人)	3人 (3人)	14人 (14人)	2人 (2人)	19人 (12人)	
			(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
		計	6人 (6人)	3人 (3人)	2人 (2人)	3人 (3人)	14人 (14人)	2人 (2人)	19人 (12人)	
	既設分	該当なし	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
		該当なし	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
計		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)		
合計		6人 (6人)	3人 (3人)	2人 (2人)	3人 (3人)	14人 (14人)	2人 (2人)	19人 (12人)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		5人 (5人)		0人 (0人)		5人 (0人)			
	技術職員		0人 (0人)		0人 (0人)		0人 (0人)			
	図書館専門職員		1人 (1人)		1人 (1人)		2人 (2人)			
	その他の職員		0人 (0人)		0人 (0人)		0人 (0人)			
計		6人 (6人)		1人 (1人)		7人 (7人)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	1,485.95㎡	0 ㎡	0 ㎡	1,485.95㎡				
	運 動 場 用 地	887.96㎡	0 ㎡	0 ㎡	887.96㎡				
	小 計	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡				
	そ の 他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡				
合 計	2,373.91㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,373.91㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	ユマニテック調理 製菓専門学校 収容定員265名 (必要面積920 ㎡) 但し、短期大学 の共有部分とし て計上されてい る86.2㎡につい ては、専門学校の 付属施設を共用 するため、専門 学校の必要な 基準面積の専用 面積に含めるこ とは出来ない。			
		3,194.79㎡ (3,194.79㎡)	86.2㎡ (86.2㎡)	1133.8㎡ (1133.8㎡)	4,414.79㎡ (4,414.79㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	6 室	2 室	1 室	1 室 (補助職員 1人)	0 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		幼児保育学科		14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	幼児保育学科	6,763〔68〕 (5,887〔68〕)	61〔2〕 (61〔2〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	213 (213)	21 (21)	0点 (0点)		
	計	6,763〔68〕 (5,887〔68〕)	61〔2〕 (61〔2〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	213 (213)	21 (21)	0点 (0点)		
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		196.08㎡	62席	14,220冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		507.60㎡	-		-				
経 費 の 見 積 り 及 び 持 続 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		250千円	250千円	-	-	-	-	
	共同研究費等		-	-	-	-	-	-	
	図 書 購 入 費	28,759千円	5,647千円	1,650千円	-	-	-	-	
	設 備 購 入 費	109,459千円	1,000千円	1,000千円	-	-	-	-	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,100千円	850千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入、私立大学等経常費補助金(開設3年後)等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	該当なし							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	該当なし	- 年	- 人	- 年次 人	- 人	-	- 倍	-	-
附属施設の概要		該当なし							

教 育 課 程 等 の 概 要															
(幼児保育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	日本国憲法	1後		2		○									兼1
	法の精神	2前		2		○									兼1
	宗教と倫理	1前		2		○				1					
	人間の生と死	2後		2		○				1					
	キャリアデザインⅠ	1後		1		○									兼1
	キャリアデザインⅡ	2前		1		○									兼1
	生活とかがく	2前		2		○			1						
	地域と暮らし	2後		2		○									兼1
	くらしと経済	2前		2		○									兼1
	リズム遊び	1前		2		○				1					
	人間と健康	1前		1		○									兼1
	国語表現法	2後		2		○									兼1
	国際社会と日本	1後		2		○									兼1
	現代社会と環境	2前		2		○				1					
	多文化共生とことば	2前		2		○									兼1
	外国語コミュニケーションⅠ(英語)	1前		1			○								兼1
	外国語コミュニケーションⅡ(英語)	1後		1			○								兼1
	外国語コミュニケーションⅠ(中国語)	1前		1			○								兼1
	外国語コミュニケーションⅡ(中国語)	1後		1			○								兼1
	情報処理Ⅰ	1前		1			○		1						
	情報処理Ⅱ	1後		1			○		1						
	スポーツ・レクリエーション実技	1通		2			○								兼1
小計(22科目)				35	—	—		2	2						
専門教育科目	保育原理	1前	2			○			1						
	教育原理	1前	2			○									兼1
	児童家庭福祉	1後		2		○			1						
	社会福祉	1前		2		○					1				
	相談援助	2前		1			○					1			
	社会的養護	1後		2		○			1						
	教職概論	1後	2			○			1						
	教育心理学	1前	2			○									兼1
	保育の心理学	2前		1			○								兼1
	こどもの保健Ⅰ	1後		2		○									兼1
	こどもの保健Ⅱ	2前		2		○				1					
	こどもの保健Ⅲ	2前		1			○			1					
	こどもの食と栄養	2通		2			○								兼1
	家庭支援論	2後		2			○		1						
	教育課程論	1後	2				○								兼1
	保育内容総論	1前	1				○		1						
	健康指導法	2前	1				○		1						
	人間関係指導法	1後	1				○		1	1					オムニバス
	環境指導法	2後	1				○								兼1
	言葉指導法	1前	1				○		1						
	表現指導法	1前	1				○				1				
	乳児保育	2通		2			○			1					
障がい児保育Ⅰ	1後		1			○			1						
障がい児保育Ⅱ	2前		1			○								兼1	
社会的養護内容	1後		1			○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	教育・保育相談	2後	2					○								兼1
	保育表現技術Ⅰ(音楽)	2後		1				○		1						
	保育表現技術Ⅱ(造形)	2前		1				○		1						
	保育表現技術Ⅲ(身体)	2後		1				○					1			
	保育表現技術Ⅳ(言葉)	2前		1				○		1						
	児童文化	1前		1				○		1						
	保育実習Ⅰ	2前		4					○	1		2	2			
	保育実習指導Ⅰ	1後2前		2					○	1		2	2			
	保育・教職実践演習	2後	2						○	3		1	2			
	教育と社会	1後	2				○			1						
	教育方法と技術	1前	2				○			1						
	保育指導法	2前	2				○			1						
	幼児の音楽Ⅰ	1前	1					○			1	1				兼2 共同
	幼児の音楽Ⅱ	1後	1					○			1	1				兼2 共同
	幼児の音楽Ⅲ	2前		1				○			1					兼2 共同
	幼児の音楽Ⅳ	2後		1				○			1					兼2 共同
	幼児の図画工作Ⅰ	1前	1					○		1						
	幼児の図画工作Ⅱ	1後	1					○		1						
	幼児の体育Ⅰ	1後	1					○					1			
	幼児の体育Ⅱ	2前	1					○					1			
	幼児の生活Ⅰ	1前	1					○		1						
	幼児の生活Ⅱ	1後	1					○		1						
	レクリエーション論	1前		2			○					1				
	保育実習Ⅱ	2前		2					○			1	1			
	保育実習指導Ⅱ	2前		1					○			1	1			
	保育実習Ⅲ	2前		2					○			1	1			
	保育実習指導Ⅲ	2前		1					○			1	1			
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1						○	3	1	2	3			
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1						○	3	1	2	3			
	専門ゼミナールⅠ	2前	1						○	4	1	1	3			
	専門ゼミナールⅡ	2後	1						○	4	1	1	3			
	幼稚園教育実習Ⅰ	1後		1					○	2		1	1			
	幼稚園教育実習Ⅱ	2後		3					○	2		1	1			
幼稚園教育実習事前事後指導	1前		1					○	2		1	1				
乳幼児の理解	2後		2			○									兼1	
障がい児の理解	2前		2			○				1					兼1	
障がい児の支援	2前		2			○									兼1	
子育て支援演習	2通	1						○	1			2				
地域ボランティア実践	1通	1						○	1	1		1				
児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2前		2			○									兼1	
児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	2後		2			○									兼1	
小計(66科目)		—	40	58				—	6	3	2	3	0			
合計(88科目)		—	40	93				—	6	3	2	3	0			
学位又は称号	短期大学士(幼児保育学)	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係											
卒業要件及び履修方法					授業期間等											
本学の卒業の要件 本学に2年以上在学し、教養科目より10単位以上、専門教育科目の必修科目40単位を修得し、62単位以上を修得すること。なお、履修科目の登録の上限は設定していない。					1学年の学期区分			2学期								
					1学期の授業期間			15週								
					1時限の授業時間			90分								

授 業 科 目 の 概 要			
(幼児保育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	日本国憲法	憲法の重要性は、国の「最高法規」と「人権保障の基本法」であるという点にある。近・現在の憲法は、基本的人権の保障の条項と、権力分立を定める政治（統治）機構の条項の部分から成り立っているが、両者は密接な関係にある。憲法は、私たち国民の日々の生活と遠い存在ではない。憲法上の平等原則は、「みんな同じ」ということを保障しているのだろうか？また、私たちのプライバシーは憲法上でどのように保障されるのかを確認する。 本講義では、歴史的な出来事や判例などを素材としながら、憲法の基本的な考え方を学ぶことを目指す。	
	法の精神	社会生活を成立させている基本的ルールについての基本的な知識を講義する。このルールに関する考え方の歴史的な流れを解説し、我々が日常生活を維持しているルールの背景、その内容及び成立過程などを確認する上でその規則的な考え方を検討する。具体的事例を参照しつつ、ルールと現社会との関わりについて扱う。一部内容は、教員試験を想定している。	
	宗教と倫理	宗教とは人間という存在が包含している有限性に対する回答の媒体である。換言すると、それは「死」という人間にとっては不可避な現実により限界付けられた人間の有限性に対して、主観的な合理的解決を試みてきた人類の知的文化的営みでもある。そして、多くの宗教での事例が示すように、非日常的経験としてのその「宗教」は、日常的経験の世界に存在する倫理的行動規範の基盤を提供してきたこともまた事実である。当該講義においては、先ず宗教と倫理の異同を論じながら、非日常の世界に属する宗教と日常的経験における倫理がいかに関わりつき、人間存在そのものや社会そのものを規定してきたのかを、様々な宗教や思想家の思想を手掛かりとしながら、明らかにしていきたいと考えている。	
	人間の生と死	人間とは「死」という何者も避けることが出来ない現実により、その実存を規定されている存在である。本講義では、古今東西の宗教や思想が、いかにこの「死」という誰にも訪れる圧倒的な絶望をはらんだ現実と向き合い、乗り越え解消していったかについて概説する。加えて、「死」を乗り越える思想である終末論、死者の復活、輪廻思想、ニヒリズムなどについて、それぞれの立場から人間の生と死にいかに関わり合ってきたのかを跡付けていくことにより、我々人類の死生観についての認識を深めていきたい。	
	キャリアデザインⅠ	この講義では、キャリアデザインを形成し、自らの1年後、1年半後の目標の設定を行い行動計画を立てることを目的とする。キャリアデザインの形成には、自己分析が重要であり、自己理解を進めることで明確な目標設定や進路選択ができる。また、施設長や現場で活躍する社会人の経験談から職業理解を深め、職業観を育む。他にも社会人としてのマナーや知識を習得することで社会へ踏み出す力を養う。	
	キャリアデザインⅡ	この講義では、キャリアデザインⅠで立てた目標の再確認を行い、行動計画を実行していく。自己分析をもとに、履歴書や面接での自己アピールなど、就職活動にあたって基本的なことを学ぶ。また、個人面接での自己アピールの仕方及び、自分を表現するスキルを習得する。他にも社会人としてのルールや知識を習得することで社会へ踏み出す力を養う。	

教養科目	生活とかがく	科学技術の発展が今日の生活を豊かで便利にし、社会の変化に影響を与えてきた。事例として情報伝達手段の変遷を取り上げ、その貢献について理解する。身近な自然の事物・現象として光を中心とした電磁波を扱い、日常生活への利用を理解する。また、日常生活における熱の性質と利用について取り上げる。太陽や月などの身近な天体と人間生活との関わり、太陽系における地球について学習する。身近な自然景観の成り立ちと自然災害について理解する。	
	地域と暮らし	次世代育成、地域経済、情報社会への対応等の地域の課題について、コミュニケーション教育、ICT教育、子育て支援教育等、教育によって問題を解決しようとする取り組みがあることを示し、こうした取り組みに主体的に参加する態度を養う。授業担当教員と対話をしながら学生も含めた協同学習を通じたアクティブラーニング型の授業を進める。	
	くらしと経済	日常生活を経済学の視点からわかりやすく説明し、経済の基礎と経済的な考え方を学ぶために主体的協働的に学習する習慣を身につけることも目標とする。身近な生活に深くかかわる経済的な活動の多様性からその原理を探究していく。人間の精神と経済情勢の相関をデータに基づいて探究する。	
	リズム遊び	身体的表現活動の意義を理解し、リズム遊びの基礎を習得する。それとともに、現場で用いられる様々なリズムを数多く紹介する。学生のコミュニケーション能力を高める歌遊びを体験する。学生自らが表現する喜びを実感し、その喜びを他人へ伝える能力を高める。	
	人間と健康	本講義では運動の意味、特に運動と健康との関わりを理解し、現代社会における健康な心身のあり方についての知識を修得する。さらに、健康とは何か、健康を多角的にとらえる。健康になるための知識を修得し、健康的な生活を維持するためには、どうすればよいのかを知る。運動を継続する重要性を理解し、知識を深めることで運動技術も高める。特に幼児にとって、遊びを通して健康的な成長と日々の健康維持のための運動の大切さの理解を深める。	
	国語表現法	日本語を概観し、言語の習得について考察し、自分自身の言葉を客観的に捉えて見つめ直すことにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能の能力を涵養し、人間関係の円滑な形成に重要な役割を担うコミュニケーション力を高める。それとともに日本語固有の魅力や特徴を学ぶことを通じて、日本文化の特徴や長所についての理解を更に深めていくとともに、乳幼児・児童の人間形成や成育の中で言葉の果たす役割について、ことばのモニタリングという手法を通して理解を深めていきたいと考えている。	
	国際社会と日本	今世紀は多文化共生の時代である。国境の垣根をこえて人々がコミュニケーションを行うことが必然である。このような時代において、コミュニケーションの主たる媒体である「言語」というものの価値について、我々は見直すべき時期を迎えているといえる。本講義では、教育機関における国際化の現状を鑑みながら、我が国固有の文化一特に言語一に焦点をあてつつ、日本語特有の温かさや特徴を考察することを通して、正しい日本語と教育現場での活かし方について学んでいきたい。	
	現代社会と環境	アニメ作家宮崎駿は自らの作品において、人間と自然との共生というテーマを扱ってきたことで広く知られている。1980年代前半で宮崎が作成したアニメ映画『風の谷のナウシカ』では、人間と自然との共生の可能性に肯定的見解を示しながらも、その十数年後に完結させた劇画『風の谷のナウシカ』では人間と自然との共生という問題意識・問題提議そのものが解体へと導かれ、その数年後に発表したアニメ映画『もののけ姫』においては、人間と自然の共生の可能性について、はっきりとした否定的見解を彼は示すにいたっている。当該講義では、この宮崎の思想的変遷の経緯を彼の作品群を手掛かりとして跡付けることを通じて、環境倫理の現状や問題点・矛盾、今日における自然と人間との共生の可能性について概説する。	

教養科目	多文化共生とことば	日本で暮らす外国人の増加に伴い、日本も多言語・多文化共生の時代になってきているが、色々な面で試行錯誤が続いているのが実情である。本講義では、他国の多言語・多文化共生への取り組みを鑑みてから、我が国の外国人への教育、政府・自治体の取り組み、ボランティアの果たしてきた役割を考察して、多文化共生にとっての課題について学ぶ。	
	外国語コミュニケーションⅠ (英語)	グローバル化に伴い、日本の就学前教育にも、多言語、多文化社会に対応できる教諭が求められるようになってきた。移民や、海外からの労働者、駐在員、国際結婚の子弟などに、柔軟に対応するための基本的な英語力に加え、多文化を共有する国際感覚を身に付けさせるとともに、文法・構文の確認、英字新聞・雑誌の吟味、国際解決型のディスカッション、北欧の幼稚園での多文化教育実践の紹介などを行う。	
	外国語コミュニケーションⅡ (英語)	就学前段階におけるバイリンガル教育が、ますます必要とされる現代に、幼稚園や保育園で簡単な授業を行うことのできる教諭を養成する。英語の歌、ダンス、ゲームなどの幼児が喜んで学ぶことのできる英語教育を実践する。	
	外国語コミュニケーションⅠ (中国語)	本講義では、主に中国で通用している北京語について、基本的な日常生活会話を教授する。また、言語学習の他、北京語を使うそれぞれの地域の文化と慣習も紹介する。 本講義のゴールは、学生に対して北京語への興味を喚起し、国際的マインドを育てることであり、学生が北京語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができることを目指す。	
	外国語コミュニケーションⅡ (中国語)	本講義では、外国語コミュニケーションⅠの内容を基礎として、より発展した内容を扱う。 講義では、主に北京語の中級日常生活会話を教授する。また、英語と北京語の対照表現なども紹介する。さらに、講義においては、学生が北京語で発言することを奨励する。 本講義では、学生が外国人と接する際に自信を持って自らの意見を述べることを目指す。	
	情報処理Ⅰ	近年は社会の現場において情報技術が必要とする事が多くなった。普通科情報の教科とは異なり、修得した情報技術が保育の現場で活用できるようなカリキュラムを行う。その内容を具体的に述べると、情報検索、正しい情報発信、情報機器の基本操作、文書作成となる。正しい情報発信では個人情報と社会モラルの順守を学び、トラブルが起きない知識を得る。文書作成では公文書の作成からおたよりや制作物の方法を修得し保育の現場で役立つ技術を身につける。	
	情報処理Ⅱ	情報処理Ⅰで学習した内容を基礎として、より高度な情報技術を修得するカリキュラムとなっている。前半では、チラシやポスター作成など、ビジュアルでわかりやすい文書作成技術を修得する。後半では、事務処理でよく活用される基礎的なデータ処理技術を修得する。目標とする文書作成技術は、バランスのとれた構図や画像素材を効果的に活用することで、児童向けのポスターが制作できる力を養うことである。データ処理では、基礎的な表計算処理ができるようにする。	
	スポーツ・レクリエーション実技	講義では、身体活動の体験を通して心身の調和を図り、健康な身体の保持増進に努める必要性を知る。生涯にわたって豊かな生活を営むために、必要な運動の技能や知識を習得する大切さを学ぶ。また、将来の社会生活において運動やスポーツを通じて、様々な身体コミュニケーションを行うことの意義について理解を深める。 具体的には、運動・スポーツを通して主体性・協調性・社会性・道徳性などを養う。また、幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得し、自ら動ける身体を作り、体力の維持増強を図る。さらに幼児教育者として適切に動き、子どもを援助指導できるように運動機能の資質の向上を図る。	

専門教育科目	保育原理	本授業では、保育の本質及び目的、保育所保育の特性、子どもの発達、保育内容・方法、保育施設の歴史や保育思想、保育制度、現代の保育をめぐる問題など、保育者を目指す学生にとって必要となる保育の基本的事項を講義形式にて幅広く取り上げ、講ずる。以上から保育のあり方や保育の専門職としての確かな知識の基盤を形成することを目的とする。	
	教育原理	社会の変化とともに、教育のあり方は、国の内外を問わず、常に変動を続けてきた。教育のあり方とは、教育思想、制度、教育方法・技術など教育を与える側のあらゆる面での変化である。また、子どもが過ごす場である家庭、地域のあり方の変化である。これら社会の変化とともに教授－学習のあり方もそれに規定され、変化してきたといえよう。教職を目指す学生にとって、子どもを取り巻く現代の環境がいかなる状況であり、またどのような課題を孕んでいるのかについても考察することは必須である。	
	児童家庭福祉	社会福祉の一分野としての児童家庭福祉について、今日の大きな社会問題の一つである少子高齢化社会を踏まえて、現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷、保育、制度と実施体系並びに現状と課題及び動向と展望について解説する。	
	社会福祉	社会福祉は歴史的な形成体である。社会福祉を理解するためには、まず社会福祉諸制度の成立とその展開過程について知ることが重要となる。本講では、社会福祉諸制度の歴史の変遷を手掛かりに社会福祉の制度や施策の全体像を理解することを目的とする。社会福祉の用語理解のみに留まらず、現代社会における社会福祉の意義や理念、相談援助や利用者支援の価値を体得することを学習の中心に位置づける。その際、幼児教育や保育を学ぶ学生の生活課題や生活実態に近づけた講義を展開する。	
	相談援助	本講では、将来、保育者として活躍していくうえで必要なソーシャルワークの価値・知識・技術の体得を目指す。ソーシャルワークは、生活上の困難を抱える人々に対して、多様な手段を用いることにより、利用者のよりよい生活を支援していくものである。相談援助を学ぶことは、子どもに対する理解の深化に留まらず、子どもを取り巻く家族や地域社会を知ることにもつながる。講義の中では、実際の相談場面を想定したロールプレイ等を行うことにより、より実践的なソーシャルワークの学習を目指す。	
	社会的養護	子どもは生まれたその時から、“社会”生活を送ることとなる。特に、家庭は「第2の子宮」と言われるように子どもを育む重要な要素がある。そういった家庭での養護が困難な児童のための施策が社会的養護である。本講義では、現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷からはじまり、児童福祉との関連性に留意しながらその制度や実施体系などについて講義を展開する。また、社会的養護に関わる専門職や社会的養護とソーシャルワークとの関連等について学ぶ。	
	教職概論	教育制度に関わる様々な歴史的・法制的・時事的な問題や課題について学び、視野の広い保育者として必要な知識・教養を身に付けるとともに、教育・保育実務に対応できる基礎的な態度や能力の形成を目指す。テキスト・プリント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。	

専門教育科目	教育心理学	教育心理学の基礎知識を、乳幼児期・児童期（障害児を含む）に焦点を当てて学ぶ。教育心理学の歴史を概観し、子どもの知的発達や学びのプロセスを理解するために、子どもの発達や知能、性格、学習のメカニズム、意欲や動機づけ、その評価等についても学び、保育や教育現場で役立てられることを目的とする。また、これらを学ぶことで、表面上ではなく子どもたちの背景を正しく把握する力や対処法を身に付けていくことを狙いとする。	
	保育の心理学	実践の場に於いて、子ども理解が深められるように、各時期の発達特徴とその背景を理論的に把握する。保育に従事する者として、経験だけではなく、理論を理解した上で実践することは大変重要なことである。発達の意味や、身体・知覚・認知・感情・言語・社会性の発達などについて学び、子どもへの理解を理論上からも深めることで、より適切な関わりができるようになることを目的とする。	
	こどもの保健Ⅰ	出生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を対象とするが、特に胎生期から乳幼児までを重点的に扱う。成長発達の途上において各臓器には様々な臨界期が存在しており、一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化が引き起される。子どもの健全な成長発達とその病的な面だけでなく、生理的な面の知識を習得することが重要である。これらの知識を基本として、三つの健康（身体・心の健康、社会の健康）を重視する視点を習得する。将来、保育士としてのみならず自身の育児に役立つ講義にしたい。	
	こどもの保健Ⅱ	保育所保育指針に「養護と教育」が一体的に展開されることが明確化され、子どもの健康・安全を確保するために計画的に実施していくことが、基本であると明記されている。そのことを踏まえ、一人一人の子どもが心身共に健やかに育つために子どもの特性を知り、安全管理や衛生管理、病気や事故の予防、異常の早期発見、対処の基本など具体的に事例を取り入れ、共に考え学び合う。	
	こどもの保健Ⅲ	乳児期・幼児期の発達段階に応じた子どもの健康の保持増進や保育現場において起こりうる健康上の問題について学習するとともに、乳児の抱き方や身体計測などの養護の方法について実習を行う。	
	こどもの食と栄養	保育園で過ごす時期は、子どもが乳児から幼児、児童へと体格的にも精神的にも大きく成長する期間である。この時期に摂取する必要のある栄養素とは何か、各栄養素の性質や栄養素が不足することによって発生する欠乏症について解説する。まだ歯が生えそろわない5～6か月の時期に、食べやすいトロミ食やキザミ食など具体的な離乳食の紹介をする。この時期は、初めて食品を口にするため食物アレルギー事故が最も多い時期でもある。小児アレルギーの発生とその対応、緊急時におけるアドレナリン自己注射まで解説する。	
	家庭支援論	急速な少子化が進行し又、結婚・出産・子育ての希望がかなえられない現状にありさらに、子ども・子育てを取り巻く環境も大きく変化してきているが、子ども・子育て支援が質・量共にまだまだ不足している。そこで家庭支援の意義と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況、子育て家庭の支援体制と多様な支援の展開と関係機関との連携について解説する。	
	教育課程論	本授業では、幼稚園の教育（保育）がどのような道筋をたどって進められるかを、保育所の状況も踏まえて、全体的な計画を示す教育課程（保育課程）と、それを具体化した指導計画について、具体例を示しながら講義を行い、各自指導計画の作成を行う。	

専門教育科目	保育内容総論	本授業では保育活動の基盤となる「幼稚園教育要領」を中心に幼稚園における保育内容の基礎と内容を学ぶ。また保育内容の中核となる「領域」について概念を理解するとともに、保育そのものを総合的にとらえる視点、あるいは子ども理解の一助となるための必要な知識・技術を習得する。なお、毎時間、手遊び等の保育教材を取り上げ、自身の保育技術向上も図る。	
	健康指導法	乳幼児期は、身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する。そうした発達の姿を理解し、保育のうえでどのように取り組むかを、実践事例を取り上げ学ぶ。さらに、運動機能が発達することにより、幼児の活動性は高まり生活の仕方も獲得されていく。幼児が自己充実を深め生活リズムを獲得していくためには、保育者のどのような関わりの仕方が必要か、現在の幼児の課題は何かを討議する等により、幼児の育ちを支える保育者の役割について学ぶ。	
	人間関係指導法	人と関わる力の基礎を育む乳幼児期に、人が人間として生きていく上で大切な人との関わりをどのような方法で身に付け、愛着関係・信頼関係を築いていくのか乳幼児の発達過程に即して理解し学ぶ。また、そのような力をどのように育んでいくのか保育の場面の事例を参考に一緒に考えてみる。そして、実際に学生自身が様々な人と関わる体験を積みながら、受容する・共感する・理解する・絆を深めるなどの力を養えるようにする。(オムニバス方式) (3 藤塚岳子/8回)人間関係構築における遊びを通した教師・保育士の支援と幼児の発達について講義する(7 山野栄子/7回)遊びを通して培われる子ども同士の関係について考える	オムニバス方式
	環境指導法	幼児教育における領域「環境」を中心に、その意義、ねらい、内容、指導計画の考え方を解説するとともに、具体的な保育の指導計画や実践記録・考察の事例をあげる。また、保育のための指導技術においては実際の保育に役立つ教材や内容を解説する。これらの内容は、保育者養成という立場から、領域「環境」を理論的、実践的に理解することを目指す。	
	言葉指導法	人は生まれて、母親や周りの人と様々な方法でコミュニケーションをとりながら、相互作用で心の交流を図り、成長していく。そのなかで伝達手段として言葉の果たす役割は非常に大きい。言葉の発達過程を理解し、子どもが経験したこと、思っていること、考えていることを自らの言葉で表現できる力を育てるために、保育者としてのあり方、環境構成、援助方法などを学ぶ。また、学生自身が積極的に教材研究し、発表することができるような実践演習も行う。	
	表現指導法	子どもが感性を育み、自分が感じたことを自由に表現できるように、保育者は子どもの成長や発達過程を理解し、適切な環境や援助ができなければならない。また、保育者自身がいろいろな表現を経験し、「楽しむ」ことが重要である。本授業では、それらを踏まえ、子どもの成長を促すために必要な表現活動の援助や指導のあり方を受講者自らが考え、創造し、学修する。	
	乳児保育	乳児期は人間の人格形成を培う大切な時期である。その時期に携わる保育者としての役割を自覚し、乳児の発達・成長について理解する。そして、子どもの生活や遊びの内容・援助の仕方を習得する。また、一人一人の子どもの育ちを大切に、個別の指導計画や記録のとり方、保育の環境や保育者間の連携、保護者・子育て支援のあり方など事例を交えて具体的に学び、保育者としての実践的能力と資質を培うようにする。	
	障がい児保育 I	「障害とは何か？」などの基本的な知識を得ることから始め、障害児保育についての基本姿勢や心構え及び対応等について保育との関連性を図りながら学び取るとともに「障害児保育観」の確立を目指して授業を進める。いくつかの障害児保育の事例に触れ、共に考え、より実践的に学ぶようにする。	

専門教育科目	障がい児保育Ⅱ	<p>障害児保育の歴史の変遷や社会的背景を学び、障害児保育の現状について正しい理解をする。特にインクルージョン教育の概念や合理的配慮を理解し、今後求められる障害児保育に関する実践的能力を熟成する。</p> <p>さらに「障がい児保育Ⅰ」で学んだ知識を基本として、障害児の発達特性、家庭支援、関係機関との連携、就学、保護者支援などに関して学び、障害児や保護者との信頼関係を築き、保育園内外において障害児保育を実践する能力を身に付ける。</p>	
	社会的養護内容	<p>子どもは本来家庭で育つことが、求められている。しかし、様々な事情により家庭で育つことが、困難な子どもも存在する。そのような事情を抱えた子どもにたいして社会は、家庭に代わって責任を持って育てていこうと考えている。それが社会的養護である。その社会的養護における児童の権利擁護と保育等の倫理及び責務、実施体系、支援計画と内容及び事例分析そして専門的技術、今後の課題並びに展望について解説する。</p>	
	教育・保育相談	<p>昨今、保育の場において、カウンセリングマインドをもって子どもや保護者に接することは必須となってきている。そんな中で保育カウンセラーの配置が求められてきているが、まだまだ設置されている所は数少ない。そこで本科目では、保育カウンセリングの基本的知識を学び、保護者に対する支援がなぜ必要なのかを考え、保育士の専門性を生かした保育士にできる支援について考え、具体的事例について学んでいく。</p>	
	保育表現技術Ⅰ(音楽)	<p>当演習においては、打楽器を通じて講義と実技の両面から授業を行う。具体的に楽典では、楽譜の中に示された様々な記号(コードネームの種類、音程、表現記号など)を理解し、演奏する際に使えるような実践力をつける。</p> <p>ソルフェージュでは、楽譜(高音部記号・低音部記号)に書かれた音を読み、正確な音程で歌えること。また、幼児期に親しむ曲に打楽器を加える工夫、そしてそれを楽譜にするなど、簡単な編曲を行う。</p>	
	保育表現技術Ⅱ(造形)	<p>将来の幼児教育に携わる者としての造形的な感性を磨き、乳幼児の発達過程を踏まえた造形表現のあり方を実技を通して体系的に習得する。将来、幼稚園や保育園等ですぐに実践できるように、発達能力に合った様々な材料を使って子どもたちと共に作る内容や、環境構成を工夫したり、子どもたちが楽しむことができる手作りのおもちゃ等を作ったりして豊かな実技を行う。また、共同で作り出すことや発表の場を設け、作りあげた喜びを分かち合う。</p>	
	保育表現技術Ⅲ(身体)	<p>身体活動による表現について理解を深め、子どもが動くことによって自らのイメージを表現するための配慮や援助の方法を習得する。基本的な動作や運動スキルを体得し、身近な素材や遊具を活用した身体の動きを体験する。また、音楽やリズムに合わせた体操を創作し、子どもの感性や創造性を育むための実践について学ぶ。</p>	
	保育表現技術Ⅳ(言葉)	<p>自分の感情や思考の伝達手段として言葉を使用できるのは人間のみである。社会の中で人と人が相互理解を深めていくために、人間の特徴である言葉をどのように使って、豊かなコミュニケーション力を育んでいけばよいのか、学生と共に考えたい。そして実際、保育の場で子どもたちと取り組む言葉遊びや絵本・紙芝居の読み聞かせ、劇ごっこなどの活動を学生が経験し、豊かな言語表現ができるようにする。</p>	
	児童文化	<p>乳幼児期からメディアに触れて育つ現代、そのことが乳幼児の脳の発達や情緒・社会性の発達に影響を与える可能性があるといわれている。そこで乳幼児期の発達にふさわしい手遊びや伝承遊び、絵本や紙芝居、人形劇など児童文化について学び、自らが製作したり演じたりして、知識や技術を習得する。また、それぞれの季節に伝わる日本の伝統行事についても学び、次世代にどのように伝えていくのかも考える。</p>	

専門教育科目	保育実習 I	<p>【保育実習 I（保育所）】 大学において学習した理論や技術をもとに、保育所において乳幼児や職員と直接触れ合う体験を通して、保育の基本的な有り様の理解を目標とする。保育実習 I では、主に「乳幼児の理解と関わり」「保育所の特性」「保育の計画と準備」について、観察実習、参加実習、部分実習において学習する。なお、実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。</p> <p>【保育実習 I（施設）】 保育所以外の児童福祉施設等における養護や自立支援の実際について現場での実習を通して体験的に学ぶ。施設の目的・機能を理解し、適切な援助方法を学ぶ。様々な背景やニーズをもつ子どもの実態について理解し、対応について学ぶ。子どもの言葉や行動を観察し、観察内容を適切に考察し、実習記録の書き方を学ぶ。以上の事柄をとおして、施設保育士の倫理・職務等について理解し、必要な資質・能力・技術を習得し、必要とされる能力を養うことを目的とする。</p>	
	保育実習指導 I	<p>保育所での保育実習の事前・事後指導を行う。実習前には、実習に向けた自己課題を明確にし、保育所の特性や保育士の仕事、保育所実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、記録や提出書類の書き方や教材研究の実際を授業の中で学ぶ。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気づきや学びを記録に残すことによって、保育所の特性や保育士の仕事、子どもについての理解を深める。</p> <p>本演習では、施設実習の事前・事後指導を行う。実習前には、実習に向けた自己の課題を明確にし、施設の特性や保育士の仕事、施設実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、記録や提出書類の書き方の実際を学ぶ。実習施設における子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務についても学ぶ。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気づきや学びを記録に残すことによって、施設の特性や保育士の仕事、子どもや児童についての理解を深める。</p>	
	保育・教職実践演習	<p>2年間の学び、あるいは学外実習で得られた専門的な知識及び技術について、学内でのディスカッション、あるいは保育現場での実践を通じて、再確認するとともに、幼児教育者あるいは保育者として必要とされる使命感、社会性、責任感、子どもに対する理解などを深めることを目的とする。また、外部講師からの講話や各現場でのフィールドワーク、実践を通じて理解を深め、受講生の幼児教育者あるいは保育者としての指導力向上に資することをねらいとする。</p>	
	教育と社会	<p>本科目の目的は、教育実践していくうえで必要とされる社会的、制度的及び学校経営の基礎的知識を学生自身が主体的に理解することを目指すものである。近年のわが国の急激な変容は様々な問題を提起してきている。教育の社会的、制度的、経営的側面を切り口として、学校・家庭・社会を取り上げ、教育のあり方について理解することを目的とする。</p>	
	教育方法と技術	<p>この授業では確実な教授技術を修得するため、学習サイクルと相互評価法を体験する。まず、大型ケント紙に1枚紙芝居を作成する。全員が1枚紙芝居を演じ、聴講者はリフレクションシートに記入して発表者に評価を返す。発表者はリフレクションシートに基づき振り返り活動を行う。次の段階はデジタル紙芝居を作成する。評価がしやすいように事前に前説を行っただけで、5分程度の物語を演じる。聴講者はWeb版リフレクションシステムより評価を入力する。発表者は可視化された評価結果に基づき振り返り活動を行い、学習サイクルを体験する。</p>	
	保育指導法	<p>幼稚園及び保育所において展開される保育における指導は、子どもの育ちを促すように、直接的・間接的になされるものである。そして幼稚園・保育所での保育は環境を通して行うことが基本とされ、遊びを通じた指導を中心として、保育のねらいを総合的に達成することが望まれている。本科目の目的は保育における指導の特質に関して、考察し理解を深めるとともに、個人の実践力の向上、指導案作成と模擬保育など通して柔軟な指導の方法のあり方を具体的に考えることをねらいとする。</p>	

専門教育科目	幼児の音楽Ⅰ	保育者は子どもたちから自発的に現れる音楽の表現力を大切にしなければならない。子どもの成長過程において、子どもが発信する音楽表現を受け止め、伸ばす必要がある。時には、子どもから引き出すこともある。本授業では、幼児教育に必要なとなる音楽的知識と技術を中心に学ぶ。	
	幼児の音楽Ⅱ	保育者は、子どもが自発的に表現する音楽、あるいは音楽的要素を受け、その表現を伸ばしたり展開を援助したりする技術が必要となる。本授業では、音楽Ⅰで習得した幼児教育に必要なとなる音楽的知識をもとに 응용知識と技術を習得する。	
	幼児の音楽Ⅲ	幼児教育において、音楽の果たす役割はきわめて重要である。子どもとの音楽表現活動を豊かに展開できるように、ソルフェージュ等理論的知識を身に付けつつ、鍵盤楽器(ピアノ・マリンバ)の演奏等技術面の能力を身に付けることを目標とする。ピアノに関してはグループ(習熟度別)分けをして、一人ひとりの演奏能力に応じたレッスンをを行い、音楽活動に必要なとなるピアノ演奏の基礎的技術の習得及び向上をはかる。	
	幼児の音楽Ⅳ	音楽Ⅳでは、音楽Ⅲで習得した理論的知識や、ピアノ・マリンバ演奏の基礎的技術をもとに、個々の演奏能力・読譜能力をさらに伸ばすことを目標とする。また、童謡など弾き歌いに関する表現技術の習得及び向上をはかる。ピアノのレッスンに関しては、音楽Ⅲ同様、適宜グループ(習熟度別)分けを実施し、受講者一人ひとりの課題を見出し、取り組むこととする。	
	幼児の図画工作Ⅰ	図画工作に関わる基礎基本的な内容と、将来の幼児教育に携わる者として造形に関わる内容とを鑑みて、体系的に習得する。棒状描画材料や絵の具の使用方法を将来、子どもたちに指導・支援しやすい方法で体得する。身近な材料を使い、環境構成と関わって工夫したものづくりをする。その際、はさみや接着剤等の使用方法を体得する。季節感を大切にしたい題材を工夫し、発表の場を設けたり、展示を工夫したりして、つくり出す喜びと充実感を持つ。	
	幼児の図画工作Ⅱ	図画工作に関わる基礎基本的な内容と、将来の幼児教育に携わる者として造形に関わる内容とを鑑みて、体系的に習得する。図画工作Ⅰで習得した技術・技能を発展・応用した題材に取り組む。「テーマの設定、計画、表現、ふり返り」のサイクルを意識し、表現力を体得するようにする。また、季節に合った共同作品に取り組み、発表や展示の場を設けて、鑑賞のあり方について学ぶ。	
	幼児の体育Ⅰ	子どもの身体や運動機能の発育・発達に関する基礎的な理論について学習する。そして、円滑な発達を助長するために保育者に求められる運動遊びの知識を、実践をとおして習得する。実践では教材や遊具・用具の知識を得るとともに、安全を確保しながら子どもの運動体験を充実させるための配慮や援助の方法を体験しながら習得する。	
	幼児の体育Ⅱ	身体活動による表現について理解を深め、子どもが動くことによって自らのイメージを表現するための配慮や援助の方法を習得する。基本的な動作や運動スキルを体得し、身近な素材や遊具を活用した身体の動きを体験する。また、音楽やリズムに合わせた体操を創作し、子どもの感性や創造性を育むための実践について学ぶ。	

専門教育科目	幼児の生活Ⅰ	子どもが具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心を持ち、自分自身や生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技術を身に付けさせ、自立への基礎を養うことについて解説する。	
	幼児の生活Ⅱ	身近な自然に目を向けるため、道端の草花や学内の樹木、これらに付く虫などを観察する。水や氷の性質を詳しく調べることにより、液体の性質やシャボン玉の不思議について知る。毎日の天気の変化から季節の変化を知り、生活の様子が変わること気付く。光、音、電気に関連した身近な実験に触れ、興味・関心を持つ。太陽や月などの身近な天体の動きについて調べる。このような自然との関わりを中心とした授業の中で、自分たちの生活の工夫や遊びへのつながりについて考える。直接体験できないものは、補助教材としてICTを活用する。	
	レクリエーション論	保育士や幼稚園教諭は、本来的に「遊び」を必要とする存在（子ども）に関わる援助や教育を実施する専門職である。子どもだけに留まらず、生活への潤いや安らぎ、そして、楽しさや喜びは保育や教育のあらゆる場面のなかで、あらゆる世代で取り組まなければならない課題がレクリエーションである。本講義では、レクリエーション活動（事業）の意義と目的を概説し、アイスブレイキングの方法、ホスピタリティの効果などを用い、地域で活躍するレクリエーション・インストラクターの基礎的な能力を向上する授業を実施する。	
	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰをもとに、その内容を深めながら、「保育の展開と方法」「保育の環境構成と整備」「保育士の職務と役割」について、観察実習、参加実習、部分実習、責任実習等の方法で学習する。なお、実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。	
	保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅱに向けて、新たな自己課題を立て、保育実習Ⅰを通して学んだことを理論的に意識化していく。実習前には、保育実習Ⅰを振り返って、乳幼児の生活や遊びの姿、保育士の仕事や乳幼児に対する関わりなど保育実践の実際について整理する。記録や提出書類の書き方や教材研究の実際に加え、指導計画の立案準備をする。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、保育所の特性や保育士の仕事、子どもについての理解を深める。	
	保育実習Ⅲ	保育所以外の児童福祉施設等の養護全般に参加し、様々な背景やニーズをもつ子どもの実態について理解し、対応について学ぶ。また、施設保育士の倫理・職務等について理解する。さらに、子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得し、地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。以上の事柄をとおして、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させ、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズを理解させるとともに、地域の子育て支援に必要とされる能力を養うことを目的とする。	
	保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅲの新たな自己課題に向けて、援助計画を立てて養護の実際を実践する際に必要な保育士の資質・能力・技術が習得できるように、保育実習Ⅰを通して学んだことを理論的に意識化していく。子どもの家族とのコミュニケーション、地域への理解や連携の方法を学ぶことを通して、子育て支援、保護者に対する支援への理解を基に保育実習Ⅰを通して学んだことをさらに理論化していく。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、施設の特性や保育士の仕事、入所児（者）についての理解を深める。	
	基礎ゼミナールⅠ	充実した大学生活を送るためには、まず大学において様々な事柄を主体的に学ぶ技法を身に付けることが求められる。本授業では大学生として必要とされる基礎的な学力やコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。	

専門教育科目	基礎ゼミナールⅡ	基礎ゼミナールⅠで培ったスキルをさらに発展すべく、グループでの議論や、他者に対して自らの考えを論理的に説明できる能力、学習の成果を発表するプレゼンテーション能力など、さらなるコミュニケーション能力の向上を図る。	
	専門ゼミナールⅠ	本ゼミナールは、幼児教育、あるいは保育の場面で必要とされる専門的知識及び技術のさらなる理解を図ることを目的とする。ゼミナールごとにテーマを設定し、保育に対する課題設定、保育教材の開発、保育の計画立案とその実践、実践後の振り返りを繰り返すことにより、さらなる実践力を身に付ける。	
	専門ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅠでの実践を継承しつつ、本ゼミナールではゼミ内でのディスカッション、保育現場でのさらなる実践、実践や学習成果に対する発表を通じて、保育専門職としてのさらなる向上を図ることをねらいとする。	
	幼稚園教育実習Ⅰ	大学での幼児教育に対する理論や技術を基盤として、1年後期に、学生の居住地周辺の幼稚園において、子どもの活動、遊びの姿、幼稚園教諭の役割を観察、あるいは保育活動に参加し記録を取りながら、「保育の展開と方法」「保育の環境構成と整備」「保育者の役割」について、学習する。	
	幼稚園教育実習Ⅱ	幼稚園教育実習Ⅰでの学習を基盤として、2年後期に、学生の居住地周辺の幼稚園において、子どもの動きや遊びへの関わり、幼稚園教諭の役割をさらに理解するため、観察実習、参加実習、部分実習、責任実習等の方法で学習する。実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。	
	幼稚園教育実習事前事後指導	大学において学習した理論や技術を教育実習に活用するうえで必要とされる事柄について学習する。幼稚園の特徴や幼稚園教諭の役割の理解を始め、記録の作成方法、子どもへの関わり方、環境への関わり方、遊び・保育教材の研究、実習にむけての課題の作成、指導計画の作成、保育内容や方法に対する理解を深める。実習後は、実習での経験を記録等から振り返り、気づきや学びを記録に残すことにより、次の実習への新たな課題を発見することをねらいとする。	
	乳幼児の理解	乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期である。この時期に携わる保育者は、子どもを深く理解するよう努め、適切な援助を行うことが求められる。本講義においては、乳幼児の発達の特性や遊び、環境や生活のあり方などを理解するとともに、保育において子どもの内面を理解することの重要性について学ぶ。また、具体的な事例を通して、子どもの発達を踏まえた援助のあり方や保護者支援について学ぶ。	
	障がい児の理解	本講義では、障害のある子ども・特別な支援を必要とする子どもの特性について学び、子どもへの理解を深める。また、その家族を含め、保育の専門家として支援のあり方を考える。具体的には、障害のある子どもや特別な支援を必要としている子どもや家族に関する事例を紹介し、そこから生起する問題についていろいろな対応や支援の方法を考える。それには、保育者として理論と実践を結びつけて様々な課題と向き合い、専門的な知識を持って実践する方法を習得する学びを進めていく。最終的に、より専門性の高い保育・教育を目指す。	
	障がい児の支援	「障害児保育」の基本的な理念や歴史について理解し、障がいの基本的な理解、保護者支援及び関係機関との連携について学ぶ。そして、保育の場で気づく子どもの発達上のつまずきについて学び、保育者として、「成長発達の課題に対する支援」という観点から支援のあり方を考える。また、保育実践を通して、障がいの有無に関わらず、違いを認め合い、支え合って生きていくインクルーシブ保育の基本について学ぶ。	

専門 教育 科目	子育て支援演習	今日、未就園児・未就学児がいる子育て家庭に対して様々な支援が必要となってきた。特に子どもへの支援のみならず、子どもを抱える保護者に対する助言、援助が必要とされている。本授業は地域における子育て支援のあり方について、大学周辺の子育て支援関連施設に出向いて、子育て支援に必要とされるプログラムを体験する。同時に学生自身がプログラムを企画・実施することを通じて、保育者として子育て支援に必要とされる知識や技術を修得する。	
	地域ボランティア実践	現代社会においてボランティア活動の重要性が増大してきている。私たちの社会が少子高齢社会となり、特に地域に密着したボランティア活動の意義はますます重要なものとなってきている。大学が所在する近隣地域でのボランティア活動を実践することを通じて、地域の状況を知るとともに、地域社会に生活する様々な人との交流を通じて、学生自身のさらなるコミュニケーション能力の伸長を図る。	
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	児童館の社会的立場や役割、機能についての理解を深めるとともに、その児童館に勤務する児童厚生員の使命や社会的役割について学ぶ。そして、「遊び」を通して、児童の健全育成を行う児童厚生員になるための基礎的・基本的な技術や知識を習得する。	
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	児童館において勤務する児童厚生員として、機能的な児童館の運営が可能となるような技能や知識を学んでいくとともに、児童厚生員としての使命感や責任感を身に付けていく。それとともに、本講義を通して身に付けた知識や技能が、実際の児童厚生員としての業務運営に活かすことができるように、実践能力と応用力を身に付けていく。	

学校法人大橋学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成 28 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成 29 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
				<u>ユマニテク短期大学</u>				短期大学の設置 (認可申請)
				幼児保育学科	100	—	200	
				計	100	—	200	
名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校				名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校				変更なし
歯科衛生学科	80	—	240	歯科衛生学科	80	—	240	
製菓製パン本科	80	—	160	製菓製パン本科	80	—	160	
計	160	—	400	計	160	—	400	